

留学を終えて

聖マリア女学院高等学校 日置 由菜（ニュージーランド）

私にとって今回の留学は自身の英語力を向上させることができました。また様々な背景を持つ人々との関わりを通して視野を広げるだけでなく、自分自身に向き合い、学ぶ姿勢を切り替えるきっかけにもなりました。

留学が始まってすぐの頃、ホストファミリーや友達との自然な日常会話に苦戦していました。まずは質問を聞き取るリスニング力、そこから返答をする文法力と語彙力が必要で、会話をつなげる発想力や瞬発力も自分には足りていませんでした。この文法は合っているのだろうか、これを言ったら相手は嫌な思いをしないだろうか、など間違えることを恐れ、頭の中で考えているうちに実際の会話はどんどん移り変わってしまいました。

留学生活を始める前、日本ではある程度自分の英語力に自信をもっていました。留学先では思うよう意見を伝えられず、そのギャップにもどかしさを常に感じていました。これを克服するために私が初めに試してみたのは会話を設計することです。例えば夕食のときのホストファミリーとの会話に向けて、何の話題について話し、そのために使うであろういくつかの文章を想定し、必要になる単語を考えました。またどんな質問を聞かれるかについて学校から帰宅したあと、ひたすらに案出しをしました。しかし、事前の会話設計は実際の会話ではほとんど効果的ではありませんでした。予想外の質問に詰まったり、話し方が形式的になりすぎてしまったりして、会話がぎこちなくなりました。さらに、学校生活で疲れて時間を取れないこともあり、完璧な英語を習得しようとする姿勢がかえって自分を苦しめているのではと気づきました。その後も単語調べは欠かしませんでしたが、会話に向けた準備を最低限に止め、できるだけアドリブで会話ができるように心掛けました。

また、私のホストファミリーはフィリピン出身で日本に住んでいた経験もあり、外国語学習に関心があり、今でも外国語を勉強しています。自分の国を離れ海外で活躍する先輩として、間違えることを気にせず、試してみることが大事であると声をかけてくれました。また学校で出会った友達も、私が逆の立場なら、別の国で頑張っている留学生の文法ミスに気にしないことに気づかせてくれ、言語を習得する目的について考えることができました。

このような試行錯誤や周りのサポートもあり、だんだんと間違いを怖がらなくなり、そのころから会話が楽しくなり、もっと話したいと感じるようになりました。それに伴い、友達にも自然な会話になってきたと褒めてもらえることが増えました。だんだんと自分の英語力に自信を持てるようになり、自然と自分のコミュニティも広がっていきました。ニュージーランドにはアジア系やヨーロッパ系などたくさんの人種の人々が暮らしており、私の学校にも様々な国の出身の生徒がいました。そのため、文化交流クラブや留学生アクティビティが充実しており、同年代でも様々な背景を持った人たちとの関りは、私にとって新たな価値観に気づく機会になり、視野を広げることにつながりました。みんなが多様な英語のアクセントを話し、英語のレベルも様々で、間違いを怖がることなくのびのびと会話のできたのも実りのある体験でした。

これらの経験を通して、失敗から学ぶことの大切さを痛感しました。この一年間で英語学習のみな

らず、いろいろな活動に挑戦し、異なる文化や人々と関わることができました。今後も新しい環境にも柔軟に適応し、自分のものの見方を更新し続けられる力につながると考えます。誰しも間違えることを恐れ、正しくありたいと思ってしまうがちですが、どんなことにも挑戦し、たくさん失敗をすることで得られる経験や学びは唯一無二のものです。たくさんの人の支えがあって得られる考え方や経験を活かし、挑戦を恐れずグローバルに活躍できる大人になりたいです。そして、観光や英語学習サポートなど、英語を使ったボランティアに参加し、地域にも貢献していきたいと考えています。